

加茂市中小企業景況調査報告(平成25年10月～12月期)

回復傾向にあったDI平均値は、前期(7～10月期)の△20.8ポイントから7.8ポイント悪化し、△28.6ポイントとなった。全業種ともに需要の停滞を当面の課題としてあげており依然厳しい状態が続くと見られる。

業種 項目		建設業		製造業		卸売業		小売業		サービス業	
		10～12月	1～3月	10～12月	1～3月	10～12月	1～3月	10～12月	1～3月	10～12月	1～3月
		今期状況	見通し	今期状況	見通し	今期状況	見通し	今期状況	見通し	今期状況	見通し
売上高		△ 19 (15) 	△ 46 (△ 39) 	△ 19 (△ 3) 	△ 39 (△ 8) 	20 (0) 	0 (0) 	△ 45 (△ 43) 	△ 24 (△ 40) 	5 (△ 26) 	△ 5 (△ 26)
採算		△ 36 (△ 46) 	△ 27 (△ 46) 	△ 36 (△ 20) 	△ 36 (△ 21) 	△ 20 (△ 22) 	△ 30 (0) 	△ 50 (△ 46) 	△ 36 (△ 47) 	△ 35 (△ 37) 	△ 27 (△ 47)
資金繰り		△ 18 (△ 25) 	△ 18 (△ 42) 	△ 12 (△ 6) 	△ 17 (△ 5) 	0 (△ 20) 	0 (△ 20) 	△ 41 (△ 40) 	△ 38 (△ 37) 	0 (△ 23) 	△ 22 (△ 28)
業況		△ 36 (△ 23) 	△ 22 (△ 34) 	△ 17 (△ 7) 	△ 27 (△ 21) 	△ 11 (0) 	△ 30 (△ 11) 	△ 48 (△ 46) 	△ 36 (△ 39) 	△ 31 (△ 28) 	△ 32 (△ 35)
経営上の 当面する 問題点	1位	官公需要の停滞		製品(加工)単価の低下		仕入単価の上昇		消費者ニーズの変化への対応		需要の停滞	
	2位	民間需要の停滞		需要の停滞		需要の停滞		購買力の他地域への流出		利用者ニーズの変化への対応	
	3位	請負単価の低下		原材料価格の上昇		販売単価の低下		需要の停滞		人件費以外の経費の増加	
業種別 コメント		売上高DI値は消費税増税前の駆け込み需要等により前期まで回復傾向にあったが、今期に入り駆け込み需要が落ち着きを見せはじめたことから34ポイントの大幅な悪化となった。来期は季節的な要因もあり、業界全体で仕事量の減少が予想される。		前期まで全項目において回復傾向にあったが、今期は全項目ともに若干の悪化となった。年末に向けて仕事量は増加したが、製品単価の低下や原材料価格の上昇の影響により、採算面での回復は難しい状況である。引き続き積極的な営業活動による付加価値の高い受注の獲得が必要である。		売上高DI値では20ポイントの回復となったが、仕入単価の上昇、販売単価の低下などにより業況DI値は11ポイントの悪化となった。また、来期の見通しは採算面で30ポイントの悪化となっており厳しい状態が続くと思われる。常に化する消費者ニーズをいち早く捉えるために業界の動向を調査し、提案型の営業を続ける必要がある。		年末商戦を迎え、回復を期待していたが、年末に入っても消費行動は弱く、全項目ともにほぼ横ばい状態であった。消費者ニーズの変化、購買力の他地域への流出などの問題へ対応するためにも、大型店との差別化を行い、消費者とのコミュニケーションを強めるなど「品物売る」こと以外でのサービスが求められる。		忘年会シーズンやクリスマスなどにより売上高DI値で31ポイントの回復となった。来期も新年会や年度末の歓送迎会などのイベントは多く、個店として更に消費行動を押し上げるための取り組みが必要である。	



※当所では分析にあたってD・I(好転したとする企業割合から悪化したとする企業割合を差し引いた値)を採用しました。

※()は前回調査時のD・I値